

えのもとだより

マダニの感染症 「重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)」

肌を露出することが多いこれからの季節、キャンプや登山、農作業など注意が必要です。最近になってその存在が知られるようになった、ダニ媒介性の新しい感染症があります。

マダニとは

マダニ類は固い外皮に覆われた大型のダニでクモなどに近い節足動物です。家庭にいる食品に発生するコナダニや、衣類などに発生するヒョウダニとは異なります。

生息地 森林や草むらの屋外に広く生息する。

大きさ 3~4mm (吸血前) 1.5cm (吸血後)

活動期 春~秋

行動 人や動物に乗り移り皮膚に固着して吸血する



重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) とは

SFTS ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染し、引き起こされる病気。

マダニに咬まれてから6日~2週間程度の潜伏期間を経て、

発熱・頭痛



嘔気・嘔吐
下痢・腹痛

筋肉痛
神経症状など
...

呼吸器症状 (咳など) 出血症状 (紫斑・下血) を起こすこともある

高齢者では重症になるケースも多く、死に至ることもある。

マダニから SFTS ウイルスが広がるサイクル

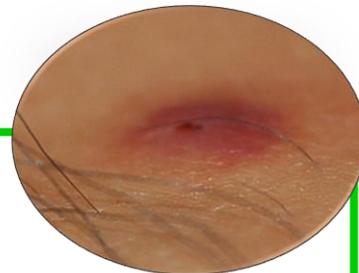
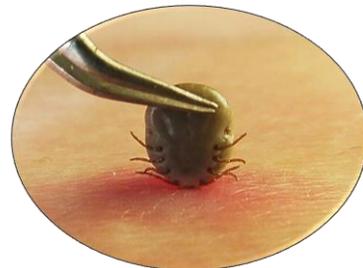
ウイルスを持つマダニが動物に乗り移り血を吸う



感染した動物の血を、別のマダニが吸ってウイルスを保有する



ウイルスを持つマダニが産卵をする。



咬まれたときの症状

咬まれた直後 ⇒ **赤く腫れ上がる、かゆみ**

6日～2週間程度の潜伏期間を経て、体調の変化、発熱や消化器症状など

マダニに咬まれたからといって必ず SFTS ウイルスに感染するわけではない。

ウイルスを保有しているマダニに咬まれた時に SFTS ウイルス感染症に感染する。

咬まれた時の対処法

マダニに咬まれていることに気づいたら、無理にひっぱらない。

皮膚の奥深くまで吸血しているので、無理に引きはがそうとすると口の部分が皮膚内に残り 2 次感染（化膿したり）を起こします。



触らずにそのまま医療機関へ

マダニに咬まれないように予防するには

- ・ キャンプや登山、農作業時は長袖、長ズボンを着用し肌を露出しない。
- ・ 草むらなどに直接座らずに、ビニールシートを敷く
- ・ 帰宅後は衣類などにマダニが付着していないか確認する。
- ・ ペット（犬など）は草むらにいけないようにする。
- ・ ペットは動物病院でダニ対策の薬で対策をする。
- ・ 感染者の血液・体液による接触感染にも気をつける。



治療 有効なウイルス薬はないので、対症療法となる。

マダニに咬まれて SFTS に感染する確率は不明です。まずは咬まれないように予防する事が大切です。